

令和4年度 第3回 西新宿スマートシティ協議会 議事要旨

- 日時： 2023年3月28日（火）10:30～11:45
- 出席者： 一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会
（敬称略） 小田急電鉄株式会社
学校法人工学院大学
KDDI 株式会社
住友不動産株式会社
損害保険ジャパン株式会社
大成建設株式会社
東京ガス株式会社
東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社
東日本電信電話株式会社
独立行政法人都市再生機構
株式会社 JTOWER
ソフトバンク株式会社
楽天モバイル株式会社
新宿区
東京都 副知事 宮坂 学
東京都フェロー
東京都 デジタルサービス局
東京都 都市整備局
東京都 産業労働局
- 開催方法： オフライン・Web 併用
- 場所： TKP 新宿カンファレンスセンター
- 議題： 1. 開会の挨拶
2. 協議会参加者の紹介
3. スケジュールの確認、第2回協議会の振返り
4. 取組・成果の報告
5. 今後の方針
6. 意見交換
7. 閉会の挨拶
- 資料： 1. 第3回協議会資料
2. 第3回協議会 Appendix 資料

1. 開会の挨拶（事務局）

- 議事次第（P.1）
- 開会の挨拶（P.2）

（宮坂副知事）

- 協議会の設立から 3 年目の今年度は、後半にはコロナ禍の制限も緩和され、対面での活動ができる状況となった。西新宿スマートシティ協議会の各プロジェクトでは 11 月のイベントなどでサービスを体験していただくなど、実装に向けて活動が活発になってきたと感じている。昨年 9 月にはコンソーシアムを設立したが、課題解決に参画企業や大学のノウハウを活用するなど、一層連携を深め、車の両輪のような形でプロジェクトを推進いただきたい。
- 広報・コミュニケーションについては、具体的な目標を共有し、デジタルツールを積極的に活用できるとよい。特に、サービスの実装には地域の方々の意見に耳を傾けることが重要である。バルセロナではデジタル技術を活用して市民の声を収集している。西新宿でも地元の大学や団体の声を施策に反映できるよう、双方向のコミュニケーションに取り組んでいただきたい。

2. 協議会参加者紹介（事務局）

- 協議会参加者の紹介（P.3~4）

3. スケジュールの確認、第 2 回協議会の振返り（事務局）

- 西新宿スマートシティ協議会について（P.6）
- R4年度スケジュール（P.7）
- 第2回協議会の振返り（R4年度協議会活動の重点ポイントと活動方針）（P.8）

4. 取組・成果の報告（事務局）

i. 【重点ポイント①】広報・巻き込み活動、発信の強化

- R2年度～R4年度の活動サマリ（広報活動）（P.11-12）
- 広報活動においては、令和2年度に協議会HP・LINE公式アカウントを開設、角川アスキー総合研究所に西新宿LOVEWalkerを開設いただき、各チャネルにおいて協議会を中心とした西新宿関連情報を継続的に発信してきた。
- 令和4年度には新たな試みとして、西新宿の方々向け広報チラシである西新宿スマートシティ通信を創刊した。毎月発行しており、ビルへの掲示や各社・団体内における展開を行っている。
- R2年度～R4年度の活動サマリ（巻き込み活動）（P.13）
- 巻き込み活動においては、令和3年度より西新宿の方々との交流の場としての意見交換会、協議会関係者内での知見共有の場としての勉強会を継続実施してきた。また、令和2年度より継続して、西新宿でのイベントへのコンテンツ出展や、スマートシティウィークの主催など、協議会の取組を認知、体験していただく機会も提供してきた。
- R4年度後半の主な取組（P.14）
- 今年度後半の主な取組として、スマートシティフェスタへの協議会事務局およびプロジェクトリーダー

の皆様によるコンテンツ出展、意見交換会の実施、西新宿スマートシティ通信の継続発行を実施した。

■ スマートシティフェスタの開催概要（P.16）

- 昨年11月に開催したスマートシティフェスタでは、プロジェクトリーダーにも協力いただき、協議会としてコンテンツを出展した。3日間を通じてたくさんの方に来場いただき、西新宿で実装を目指すスマートサービスを体験いただいた。

■ 意見交換会の実施状況（R4年度第3回）（P.17）

- R4年度第3回意見交換会は事務局が主催し、共催者としてメディアのプロである角川アスキー総合研究所に参加いただき、「協議会LINEの魅力的な運用方法」について検討した。

（株式会社角川アスキー総合研究所）

- 参加された方々も情報発信に悩んでおり、工夫をしたいということで講演を行ったが、活発な意見交換になり、意義のある会であった。

■ 意見交換会の実施状況（R4年度第4回）（P.18）

- R4年度第4回意見交換会は事務局主催のもと、「西新宿における未来のスマートサービス、生活様式を考える」をテーマに開催した。参加者の皆さまには、協議会の取組や西新宿地区再整備方針を共有し、交流・移動・食事に関して、西新宿で将来実現してほしいサービスを検討した。

■ 勉強会の実施状況（P.19）

- 今年度後半は2つの勉強会を開催した。1つ目は、大成建設、小田急電鉄が主催で、新しい都市の評価指標を活用した西新宿の魅力化をテーマとし、ワークショップ形式で実施した。2つ目は、東日本電信電話が主催で、地域課題を解決する無線技術をテーマに、スマートシティ推進においてなくてはならない無線技術の仕組みや活用事例について講演いただいた。

（小田急電鉄株式会社）

- 勉強会には協議会メンバーや国際文化都市整備機構の参加メンバー40名程度に参加いただいた。西新宿に関わりのない方も参加しており、勉強会を通じて西新宿に興味を持っていただくことができ、外部の方々をいろいろな形で巻き込みながらまちづくりを行う意義を感じた。

- （宮坂副知事）

エリアクオリア指標とはどのようなものか。

- （小田急電鉄株式会社）

Well-beingの指標であるが、Twitterのつぶやき状況を解析し、街がどのように盛り上がっているかという評価も行っている。また、小さいエリア単位で評価を行っていることも特徴である。

- （宮坂副知事）

西新宿はどういった評価か。

- （小田急電鉄株式会社）

全体で見ると悪くはないが、他のエリアと比較すると盛り上がりにかけている。

■ 西新宿スマートシティ通信での広報（P.20）

- 西新宿スマートシティ通信は、西新宿の方々に協議会の取組をわかりやすく紹介することを目的として昨年8月に創刊号を発行し、その後毎月発行している。プロジェクトの紹介、意見交換会をはじめとしたイベントの紹介、参加者募集等を掲載しており、協議会関係者のビルに掲載いただくなど、関係者の皆さまの協力のもと、継続した情報発信に取組んできた。実際に、ビルに掲載されたスマートシティ通信を見て、意見交換会に参加いただいた方もおり、一定効果を実感している。

■ 協議会LINE公式アカウントでの広報（P.21）

- 令和2年度のLINEアカウント開設後、協議会の取組自体の充実や、イベントなどでの積極的な広報も相まって、LINEの友だち登録者数を増やしてきた。今年2月末時点で、友だち数は1,000人に到達し、協議会の取組に興味を持ってくださる方が増えてきていることを実感している。

■ 活動を通じて判明した課題（P.22-23）

- 課題としては、主に3点を認識している。
- 1点目は、「協議会の取組内容の認知度は向上の余地がある」という点である。これまで3年間の活動を通じて、協議会の認知度は37%あるものの、HPやLINEなど取組の認知度は15%程度であり、認知度向上の余地がある。
- 2点目は、「コミュニティの場・機会が不足している」という点である。令和3年度以降、意見交換会を定期開催してきたものの、コミュニティメンバーによる日常的な交流という観点では、十分な回数とはいえない。
- 3点目は、「コミュニティ推進主体となるコアメンバーが不足している」という点である。協議会のコミュニティ活動を牽引するリーダー的な存在が確立できておらず、コミュニティの拡大・活性化が進んでいない。

ii. **【重点ポイント②】プロジェクトの都市実装に向けた取組推進**

■ R2年度～R4年度の活動サマリ（P.24-26）

- 「プロジェクト組成・推進」においては、令和2年度に複数件の短期実証を実施した。令和3年度からは中長期プロジェクトを募集、選定し、これまでに10件のプロジェクトが組成され、西新宿での実装に向け取組を推進している。
- 「課題・取組効果の把握」においては、令和2年度より継続してアンケート調査を実施し、まちの課題や協議会活動の効果を経年で測定している。

■ 年度後半の活動サマリ（P.27）

- 今年度後半は、スマートシティフェスタ等でのプロジェクトの実証やアンケート調査を実施した。

■ 中長期の課題解決プロジェクト（P.28-30）

- 令和3年度より始まった中長期プロジェクトは、年々参画企業を増やし、現在5つのテーマで10件のプロジェクトが取組を推進している。

■ 実装したプロジェクト一覧（P.31）

- 新宿WoWプロジェクト、西新宿LOVEWalkerプロジェクトなど4つのプロジェクトに関しては、すでに取組が実装に至っており、徐々に西新宿のまちに根付き始めている。

プロジェクト進捗状況の共有 テーマ①：地域の魅力創出

（小田急電鉄株式会社）

- 新宿WoWプロジェクトでは、取組がハブとなり多様な方を呼び込むことを目指している。今年度はXR映画祭、Candle Night、新宿中央公園でのアクティビティを実施した。
- XR映画祭は連携が進んでおり、オンラインが中心だが、動画再生回数も多く、今後も象徴的なイベントにしていきたい。
- Candle Nightは今回で5回目の開催となり、地域に根付いてきたと感じている。参加者は約4,000名であり、地域の30強の団体とも協力することができた。
- 新宿中央公園については、コロナの影響が緩和してきたこともあり、来年度も新宿中央公園が1つのハブとなるよう、取り組んでいきたい。

プロジェクト進捗状況の共有 テーマ②：認知度向上・地域への参画促進

（東日本電信電話株式会社）

- 過去2年間はリアルなコミュニティ形成に取り組んだが、今年度は、バーチャル空間での新しい交流機会を創出する目的で12月末にバーチャル西新宿を立ち上げた。バーチャル西新宿内に都民広場、新宿中央公園等を再現し、バーチャル空間内での回遊をはかる仕組みを構築した。12月末の時点で、損害保険ジャパン、工学院大学、西新宿スマートシティ協議会の3団体がルームを立ち上げ、運用を行っている。
- 今年度はKPIを設定していない。
- 現在は、クリアソン新宿、芸団協、京王プラザホテルのルーム立ち上げを、来年度第1四半期を目指して推進している。
- 1月2月は7,500程度のユーザーに体験いただいており、滞在時間としても2分弱となっているが、デジタルコンテンツは触らないと劣化してしまうため、来年度はプロモーションの強化とリアルイベントとの連動に取り組みたい。ゆくゆくはバーチャル西新宿の自走化も目指している。

（株式会社ジョルテ）

- 西新宿のイベント情報の電子化と電子化した情報を届ける取組を実施している。取組の1つとして、西新宿のイベント情報を掲載したカレンダーとお知らせ機能を搭載した西新宿情報カレンダー/スポットというサービスに取り組んでいる。
- 西新宿情報カレンダーでは、自社目線で大きなイベントの情報を収集してカレンダーに表示し、合わせてギャラリーと飲食店の情報を掲載した。しかし、「なんとなく」便利であるが、「なんとなく」では継続的に利用されないという課題がある。継続的に利用する価値を作るため、業務でイベントを検索

している方など、イベント情報の収集を必ず行う方をターゲットに、イベント情報を網羅的に検索できるマチカレという新しいサービスを構築している。マチカレは3月中のリリース予定で準備を進めている。

- 意見交換会を実施し、欲しい情報が手に入るようにしてほしい、コミュニティの情報共有ができるようにしてほしいという意見をいただいた。網羅的に情報を集めることは難しいため、文化やアートなどテーマに絞って情報収集を行っている。

(株式会社角川アスキー総合研究所)

- 今年度はYouTube生放送を行い、現在ショートバージョンを含め2つの動画で合計約1.5万回再生となっている。また、スマートポール事業で西新宿LOVEWalkerと連携した飲食店のクーポンの配信を行っており、24店舗の飲食店にご協力いただいた。
- KPIとして、地域関連企業・団体発信の連載記事については16の企業・団体に協力いただいている。イベントの実施については、YouTube生放送や意見交換会を実施した。
- 西新宿LOVEWalkerの認知度向上も進んでおり、Twitterのフォロワー数も2万6千まで増加しているが、まだ認知が進んでいないところもあるため、情報発信を継続して行いながら、各プロジェクトリーダーと連携していきたい。また、今後は西新宿LOVEWalkerとしてのイベントの実施などにも取り組みたい。

(株式会社レスターエレクトロニクス)

- スマートシティフェスタではタイムテーブルの案内にフォーカスしていたが、実際は西新宿エリアで次に何をするとよいかという問い合わせが多く、次の行動変容につなげられるような周辺情報の掲載やシステム連携を検討したい。家族連れが来場し、子どもが最初に利用するケースが多く、対応する必要がある。
- 来年度は実装を目指した取組に注力していきたい。

プロジェクト進捗状況の共有 テーマ③：移動環境の整備

(損害保険ジャパン株式会社)

- 今年度は、環境改善委員会と連携した自動運転タクシーの実証実験を実施し、スマートシティフェスタに来場した一般の方やまちづくりの関係者など合計350名以上が試乗した。
- KPIについては、乗車アンケートで達成状況をはかった。実装への期待感としては100%となっており、実装への期待感向上に貢献できたと考えている。
- 今年度の取組を通じて、自動運転がまちづくりに活用できることを確認できた一方、駐車場所の確保などの課題が明確化され、実装に向けて行政との連携・協議が必要であることが確認できた。
- 次年度は環境改善委員会にプロジェクトリーダーを変更し、さらに取組を加速したい。今年度実施した実証実験と同様の取組を定期的の実施し、人を呼び込むことで西新宿エリアの活性化に貢献したい。

プロジェクト進捗状況の共有 テーマ④：新たなワークスタイルの確立

(株式会社KDDI総合研究所)

- 西新宿CAMPプロジェクトでは、ワーカーが高い生産性で働ける状態を目指して取組を推進している。
- 昨年度は屋外のワークスペースでグループワークを行ったが、今年度は自己成長や価値観のアップデートを目指し、内省に取り組んだ。内省自体は自宅やオフィスでも実施可能だが、非日常空間で実施することで普段と異なる思考につながると考え、デジタル技術を活用した疑似焚火空間での実証を実施し、参加者から焚火の映像を眺めると集中できる感覚があったなどの良い評価を得た。実証結果については、西新宿LOVEWalkerと連携した情報発信を予定している。
- 今年度の取組により、非日常空間の有効性は検証できた。今後は事業化やスケーリングに向け、テンポラリーオフィス設置のオンデマンド性などの課題の解消を目指す。プロジェクトは計画通り今年度で終了するが、継続して研究活動に取り組み、社会実装を目指す。

テーマ別取り組み案の共有（テーマ⑤）：エリア共有基盤の整備

(新宿副都心エリア環境改善委員会)

- 今年度は、エリアOSの利用プロセス精緻化のため、アセットを管理している5団体10名の方を対象としたユーザーテストを実施した。エリアOSの機能自体は便利であるという評価をいただいた一方、UIについての改善点などを指摘いただいた。UIが改善されないと日常的に利用されないため、UIの改善に引き続き取り組んでいきたい。
- ビジネスモデルの検討も実施した。エリアOSを地域で運用していくために、今後は協議会だけでなく、周辺の関係者と協議を行いながら、引き続きビジネスモデルを検討する必要がある。

(東京ガス株式会社)

- 今年度は、電力の需給ひっ迫への対応と、実態調査としてアンケートの実施に取り組んだ。
- 取組成果について、電力の需給ひっ迫への対応としては、プラントの電気使用状況により、最大8,000kW程度（一般家庭2,670軒分の電力使用量）をエネルギー市場へ供給した。アンケートの実施については、24棟のビルに対してアンケートを送付し、意識調査は13棟、BEMS取得データは7棟から回答を得た。
- 次年度方針について、電力の需給ひっ迫への対応については、引き続き柔軟に対応していきたい。需給最適制御の推進については、今年度のアンケート結果から判明した課題について、モデルビルを選定し、対応策を実施していきたい。

(株式会社JTOWER)

- 今年度は西新宿スマートポールの取組について、LBMA Japan、西新宿5Gコンソーシアムの参画企業に対してプレゼンやディスカッションを実施した。
- PoCについて、Wi-Fiプローブデータを活用した人流ダッシュボードの作成、気象データと連携したコンテンツのサインageへの掲出の2つの案を検討していたが、前提としていたスマートポール事業に不採択

となり、実施を断念した。

- KPIについて、ユースケース自体は4件だが、サービスPoCは0件である。データ利用料の支払意向もユースケースと連動しているため、未達成である。
- 今年度の取組を通じ、サービス提供者から、人流データとしては取得箇所が少なく西新宿エリアの傾向がつかみにくいということ、新規サービスの創出や既存サービスの改修などのコストをかけてまでデータを利用して価値を提供することが困難であるということの2つの課題をいただいた。
- 次年度は、課題を踏まえ、新規サービスの創出や既存サービスの改修などをエリア外から導入することとは困難であると考えており、協議会の各プロジェクトおよびコンソーシアム参画企業との連携を目指し、開発中サービスへの活用可能性を模索したい。

■ アンケート調査の実施概要（P.42-43）

- アンケートでは、昨年度から継続して、西新宿のまちの課題の状況、協議会活動の認知度、協議会の取組の効果を確認している。1点目、2点目に関してはwebアンケート形式でモニター回答者含め約1,800人の方に回答をいただいた。3点目の効果検証に関しては、LINEのコミュニティメンバーに協力いただき、50名から回答をいただいた。

■ アンケート結果サマリ・考察（P.44-45）

- アンケート①西新宿の課題の状況把握においては、課題の充足度合を示す“充足度スコア”、満足度合を示す“満足度スコア”は、過年度から横ばいで推移していることを確認した。アンケート②認知度把握においては、協議会の認知度は約37%であることを確認した。最後にアンケート③取組効果の検証においては、中長期プロジェクトは課題解決に役立つと感じてもらえているものの、「交流環境」については改善の余地があることを確認した。
 - 結果サマリをもとに考察として、3点共有する。1点目は、「サービス実装や実証体験を増やし、“西新宿の人々が実感できるレベル”で、まちにサービスを根付かせていく必要があるのではないか」という点である。充足度、満足度が向上した状態、つまりは西新宿のまちの課題が改善していることを実感いただけている状態を目指すためには、実感の機会をより多く創出する必要があり、まちに根付いた実装サービスを増やしていくことが必要である。2点目は、「広報活動による情報発信を通じて協議会や取組の認知度を向上させる中で、“まちの変化の可視化”に取組んでいく必要があるのではないか」という点である。実証や実装を通じたまちの変化を可視化し西新宿の人々に認知いただくためにも、協議会での広報活動を通じて、取組の認知度を高めていくことが必要である。3点目は、「交流機会をより充実させていく必要があるのではないか」という点である。アンケートを通じて、交流環境に関しては改善の余地があることを把握しており、「ワークショップや意見交換会を定期的を開催してほしい」、「住民の交流機会を増やしてほしい」との意見をいただいているため、オフライン・オンラインを活用し、交流機会を増やしていくことが必要である。
- #### ■ 活動を通じて判明した課題（P.46-47）
- 課題としては、主に3点を認識している。
 - 1点目は、「実装したプロジェクトの維持・定着が必要」ということである。これまで3年間の活動を通

じて、10件の中長期プロジェクトを組成し、うち4件は実装に到達している。しかし、西新宿の課題解決を加速させ西新宿の人々に実感いただくためにも、より多くの取組が実装へと進むこと、更にはまちに根付いたかたちで定着することが必要である。

- 2点目は、「プロジェクト間や事業間の連携が少ない」ということである。協議会やプロジェクトリーダーによる合同分科会などを通じて、プロジェクト間の連携、事業間の連携を推進し、3件のプロジェクト連携の実現に至った。しかし、多くの事業者・団体が集まる西新宿においては、更なる連携によるサービス創出が可能であると考えており、より一層の連携強化が必要である。
- 3点目は、「都市OSのユースケースが少ない」ということである。これまで都市OSの実証を進めてきたが、オープンスペース利活用に限定したものであったため、ユースケースの多様化が必要である。

iii. **【重点ポイント③】協議会の持続的な運営に向けた検討**

- R2年度～R4年度の活動サマリ（P.48-50）
 - ファイナンスモデル・組織体制は、令和4年度より検討を開始した。年度前半には、大丸有、札幌をはじめとした他エリアに対してヒアリングを行い、各エリアのファイナンスモデルや組織体制の現状、課題を把握し、西新宿におけるスキームならびに協議会の組織体制の検討を行い、関係者への説明を進めてきた。
- 年度後半の活動サマリ（P.51-52）
 - 今年度後半は、西新宿地区再整備方針の策定に向けた連携、来年度の他事業との連携および協議会組織体制の検討を実施した。

（新宿区）

- 西新宿地区は、新宿副都心計画等に基づき、道路、公園、駐車場、超高層ビル、公開空地等の整備が進められており、東京の高度経済成長を象徴するビジネス街として発展してきた。一方、一体的な空間形成や賑わいの連続性の欠如、ウォークアブルな街への転換、デジタル技術発展への対応、災害対応の強化など、社会状況、周辺環境が変化している状況を踏まえ、ビジネス街としての競争力の強化に加え、多様な人々の交流を促しながら、人が憩い、楽しく歩くことができる都市空間に再編し、新しい働き方・過ごし方が実現できる西新宿地区の再整備に向け、東京都と共に方針を策定している。
 - まちの将来像を「東京の新しいライフスタイルを創造・実現するまち」とし、5つの方針を定めており、方針4を、「デジタルの力で質の高いサービスを提供するスマートシティの実現」としている。
 - まちの将来像について、4号街路とその沿道を一体的に再編した西新宿グランドモールを9号街路から新宿中央公園に向かって臨んでいるイメージである。
-
- 西新宿におけるマネタイズスキーム実現方針（P.53）
 - 西新宿におけるマネタイズスキームの実現方針として、短期的に実現を目指すもの、中長期的に実現を目指すものをそれぞれ検討してきた。実現に向けては、関係者の皆さまの協力や、スキームを

運用できる協議会の組織体制の整備が必要であり、今後、詳細を詰めるとともに、説明を行っていききたい。

■ 活動を通じて判明した課題（P.54-55）

- 課題としては、主に2点を認識している。
- 1点目は、「実効性のあるマネタイズスキームの確立が必要」という点である。他エリアへのヒアリング等も踏まえ事務局を中心に西新宿におけるマネタイズスキームの検討を進め財源確保策をまとめたが、自立的な協議会運営に向けてより実効性のあるスキームを確立する必要がある。
- 2点目は、「協議会組織体制等の見直しが必要」という点である。目指すべき西新宿のまちの姿である西新宿地区再整備方針の実現に向けて、方針4に記載されている取組を推進するためにも、協議会組織体制の見直しが必要である。

5. 今後の方針（事務局）

■ 西新宿地区再整備方針（P.57）

- 西新宿地区再整備方針で「デジタルの力で質の高いサービスを提供するスマートシティの実現」を掲げている。西新宿スマートシティ協議会では、方針実現に向け、「スマートサービス」、「コミュニティ」、「データ利活用」を新たに3つの重点分野として設定し、取組を推進する。

■ 取組方針：新たな重点分野①スマートサービス（P.58）

- スマートサービスの着実な実装に向け、これまでの課題である「実装プロジェクトの定着」、「プロジェクト間・事業者間の連携」に関する課題の解消を目指し、「多様な主体者がつながり、挑戦的かつ迅速なスマートサービスの実装に向けた支援を提供する」ことを方針として位置付けている。具体的には、サービス実装に向けたコンソーシアム等への促進支援、連携を促す体制の構築、移動交通等エリマネとして重点的に取り組むサービスの検討などを想定している。

■ 取組方針：新たな重点分野②コミュニティ（P.59）

- 多様な人々が集う西新宿におけるまちづくりコミュニティの充実に向け、これまでの課題である「協議会の取組内容の認知度」、「コミュニティ活動機会」、「コアメンバー」に関する課題の解消を目指し、「デジタル技術を用いて、多様なコミュニティとの連携や双方向コミュニケーションを実現する」ことを方針として位置付けている。具体的には、SNSやWEB等を組み合わせた戦略的な情報発信、地域の商店会や学生、既存コミュニティを巻き込んだコミュニティ活動の推進、デジタルツールを活用したコミュニケーション促進、などを想定している。

■ 取組方針：新たな重点分野③データ利活用（P.60）

- エリア内の様々な都市情報を活用するデータ利活用の推進に向け、これまでの課題である「都市OSのユースケース」、「マネタイズスキーム」に関する課題の解消を目指し、「都市OSの新たなユースケース拡大を検討するとともに、マネタイズスキームの確立に向けた検討・関係者調整を推進する」ことを方針として位置付けている。具体的には、都市OSの新しいユースケース検討、短期的及び中長期的視点でのマネタイズスキームの検討などを想定している。

- 取組の方向性：西新宿スマートシティ協議会（P.61）
 - 「魅力ある西新宿の実現に向けて、デジタル技術を活用し、スタートアップを含む産官学が連携しつつ、学生や子供など多様な人々の意見を反映し、市民のQOLの向上」を実現すべく、新たな重点分野ごとの目標を設定する。1点目は、「まちの課題解決や魅力向上に役立つスマートサービスの着実な実装」。2点目は、「多様な人々が参加する地元主導のまちづくりコミュニティの充実」。3点目は、「エリア内の様々な都市情報を活用するデータ利活用の推進」である。
- 協議会とその他西新宿事業・取組との連携体制（P.62）
 - 協議会は西新宿における情報連携のハブとしての役割を担い、広く他事業との連携を目指す。中でも、コンソーシアム事業との連携をより強化する中で、一体となったまちづくり、スマートシティ推進に取り組む。
- 協議会とコンソーシアムの目指す関係性（P.63）
 - コンソーシアムとの関係性について、協議会としては広報・コミュニティ活動を中心に行うとともに、コンソーシアムでのサービス実装に向けた西新宿の課題等の連携を行い、コンソーシアムとしては先端サービスの実装に注力し、西新宿の課題解決に注力することを目指す。
- 令和5年度以降の西新宿スマートシティ協議会の組織体制（P.64）
 - 来年度以降の協議会組織体制の大きな変更点としては、従来のPT/TFによる構成を再編し、新たな重点分野3つの部会とする。協議会参画者の役割・参画する部会を見直し、再整理のうえ、運営を行う。これに伴い、デジタルを活用した先端サービス、課題解決の取組に関してはコンソーシアム事業が中心となって担うこととなり、協議会としては西新宿の課題・解決の方向性の確認、共有を担う。
- 今度3か年のスケジュール案（P.65）
 - 各部会の取組に関しては、来年度第1回の協議会にて計画や活動方針を共有のうえ、計画に沿って活動を推進する。また、令和7年度に想定している協議会の自立的な運営を視野に、段階的な移管準備を進めていく。

6. 意見交換（事務局）

- 意見交換（P.66-70）
（発言者A）
 - 多くのプロジェクトが組成され、取組が推進されていることは良いことだが、供給者目線が強くなっていると感じる。サービスデザインの専門家などとワークショップを行い、カスタマージャーニーなどを作成するとよい。連携についても、供給者目線より、西新宿で時間・空間を過ごす方の目線で何を連携させるとよいか検討するとよい。定量評価としてはアンケートを実施しているため、今後は何を行うべきか定性的な評価を意識するとよい。
 - 空間の使い方を行政などが決定するのではなく、空間を利用する人が議論・決定できると西新宿で暮らす方にとって魅力につながる。タクティカル・アーバニズム（戦術的都市計画）などを一部導入し、西新宿に暮らす方がまちづくりに貢献・関与することができる仕掛けを検討するとよい。

- 前橋は、前橋に住んでいる人・前橋を訪れる人がどのような経験をするかというペルソナを作成している。西新宿でペルソナを設定する際は、プロジェクトを横断して設定するとよい。また、200mほどの私道を民間が整備する取組もあり、参考にするとよい。

(発言者B)

- 供給者目線が強くなっているという指摘に関して、サービスが根付かない原因として、サービスを受けとる方のニーズを拾い切れていない状況があり、ターゲットの再設定が必要ではないか。協議会などで議論する際は通勤者に視線を向けがちだが、「Candle Night」や「こどもまつり」の来場者の多くは家族連れであり、西新宿エリアで課題を感じている方はファミリー層が多い可能性もある。
- 協議会内で議論して取組を決定するより、実際に小学校・保育園・PTAの方と会話し、彼らの考えを拾ったうえで直接的なコミュニケーションを行うとよい。小学校の校長や保育園の園長など地域の方が集まる西新宿情報連絡会のような西新宿で生活している方が議論する場に協議会が出向き、生の声を取り入れるとよい。

(発言者C)

- 西新宿らしさをどのように実行するかという点に課題がある。西新宿は各ビルに多様な企業が入っており、タレントのある方が多く存在するが、共助の関係を結べていないことが、西新宿らしさが出ていない原因の1つである。2丁目のような西新宿らしさと歴史的な西新宿らしさの2つの西新宿らしさを融合できるのではないか。
- 新しく取り組みそうな事例を作っていくことが重要ではないかと考え、従来から行っているまちづくりの活動をコンソーシアムにデータとして提供している。また、大学の敷居を下げ、気軽に相談に訪れるなど、大学が空間的なハブになれるとよい。
- マネタイズの議論は非常に重要である。多都市展開を行って初めて成り立つビジネスモデルが多く、西新宿に限定するとマネタイズが困難に感じる場合が多い。原因として、サービスを分断しすぎている状況があり、バリューを生むところまで完結型で実施しないと、収入の確保は困難である。ビジネスのマッチングを行い、ランニングコストを下げ、最後に収入に戻すという、サービス連携還元型のビジネスモデルを考えると、汎用性と地域独自性を両立することができる。完結型での取組をタウンワイドで実装するとよい。

(発言者D)

- 東京都として、来年度はスタートアップに注力し、西新宿生まれ西新宿育ちのスタートアップが多く生まれるまちにしたい。スタートアップが取組を始める際、行政も支援するが、まちの方が受け入れないと実行できないため、まち全体で支援できるとよい。
- 通勤者目線になりすぎているという課題を解決する第 1 歩として、議論に多様な方を集めることが重要ではないか。子どもでも参加できるアイデアソンなどを利用して多様性を高めるとよい。
- データ利活用について、西新宿にいるタレントのある方の情報などもエリア OS に掲載するとよいので

はないか。スタートアップが西新宿で仕事を行う際に役に立つ情報となる。

- スマートシティの推進は、世界中で取り組まれており、今後はデジタル田園都市国家構想により、日本中で一斉に取り組まれ始める想定である。西新宿は他の自治体に先んじてスマートシティに取り組んでおり、西新宿の取組で得た知見は他の自治体にとって良いノウハウとなるため、国内の様々な自治体に向けて情報を発信できるとよい。
- 来年度 5 月に、City Tech Tokyo という、スタートアップ向けのイベントが行われる予定である。西新宿の取組も発信すると、世界で同様の取組を行っているスタートアップとつながることができるので、ぜひ活用いただきたい。今年度の City Tech Tokyo は 300 程度のスタートアップが参加し、そのうち 2/3 は海外の都市型スタートアップであった。また、約 4 万弱の方に来場いただいた。

7. 閉会の挨拶（事務局）

■ 閉会の挨拶（P.71～72）

（一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会）

- 協議会の取組も3年目となり、多くの成果が出ていることを改めて認識した。
- 環境改善委員会の役員会で、今後2年の過ごし方が重要であるという議論になった。次の2年はサービスと空間が一体的に変化する、めったにない機会である。空間は50年に1度しか変化しないため、このサイクルは非常に重要であり、見える化が重要である。4号街路や都民広場などの空間については、調整が難しいため、行政として1枚岩で取り組む必要がある。西新宿は都庁があるという特徴があり、どのような体制・推進方法がよいのか、見える化しながら検討していきたい。
- 環境改善委員会も、初めの5年は成果が出なかったが、徐々に成果が現れてきたため、協議会としても成果が表れるタイミングが近いと感じている。

以 上